

神経リハ研in福島

ま で い ニ ュ ー ス

第27回 全日本民医連 神経・リハビリテーション研究会in福島2017
—可能性をあきらめない— “ま で い” の心でリハビリテーション



第6号

発行日 2017/9/4

<実行委員所属院所>

医療生協わたり病院
福島市渡利字中江町
34
024-521-2056

生協いいの診療所
通所リハビリセン
ターいいの
福島市飯野町字後川
27-2
024-562-4120

小名浜生協病院
いわき市小名浜岡小名
山ノ神32
0246-53-4374

桑野協立病院
郡山市島2-9-18
024-933-5422

福島県民主医療機関
連合会
福島市渡利字番匠町
15-2
024-522-8131



皆さんにお会いできるのを
楽しみにしております
佐藤 武

演題抄録・参加最終メ切 9月9日(土)です!

お疲れさまです。お忙しい中、参加のご検討・準備をされている皆さまに心より感謝申し上げます。

9/4現在、125演題148名様のお申し込みを頂きました。

目標参加人数まで、 あと22名とないました!

もうあと一押しのご検討を、よろしくお願いいたします<(_)>

最新情報は、どうぞWebにてご確認ください



実行委員長のYouTube動画：街なか探訪「プラタケシ」も、ぜひご覧ください!

お申込み・開催概要はwebで...

URL fukumin-rehabilitation.com

日程 2017年10月20日(金)9:30~10月21日(土)11:50

事務局 医療生協わたり病院リハビリテーション科

TEL024-521-2056(代) FAX024-521-2926(代)

問い合わせ E-mail) fukumin-reha@watari-hp.jp

— 第27回 全日本民医連 神経・リハビリテーション研究会in福島2017 実行委員会 —

渾身の、実行委員企画をご紹介します!

“ま で い” の心でリハビリテーション

～震災後 放射線問題の中で受傷・発病した患者さんとの関わり～

症例報告を通して、震災・原発事故がもたらした問題と、それに向き合った当院スタッフの取り組み、私達が感じたこと、今後に生かさなければならぬことなどをスライドにまとめ、発表します。一例目の患者さんの生まれ故郷である、今年避難指示が解除されたばかりの地域にも取材に行ってきました。

症例報告

- 多職種連携が奏功した、リハビリが困難であった高齢男性
- 集中治療を要し、リハビリの必要性も高かった50代男性

一例目の高齢男性は、放射線により避難指示区域に指定された地域に暮らしていましたが、認知症のため状況の理解が出来ず、家族の説得にも応じず一人避難指示区域の中に残りました。

混乱の中 孤立し、生活が崩れてしまったことにより どんどん廃用がすすみ、ある日 転倒・受傷してしまいました。回復期病棟に 移ってきた時は すべてを拒否する状態で、食事も2~3割しか 食べてくれませんでした。

なかなか 訓練が進みませんでした。家族から お話を伺ったり 多職種で連携して対応したことで、最終的には FIM が 28点も上がり(54点)、笑顔もみられるようになりました。

その詳細を お伝えします。

二例目の50代男性は、震災後 食品の放射能汚染が怖くて 食事が摂れなくなってしまいました。

極度の低栄養状態となり、当院に搬送されてきた時には意識もなく、また、背部に巨大な褥瘡が認められました。入院後 褥瘡感染による敗血症を繰り返し、嚥下障害に伴う誤嚥性肺炎も重なって 一時は呼吸停止し、人工呼吸管理となりました。

その後の治療 および リハビリテーションが奏功し、現在は 当医療生協のボランティアとして、院内で活躍頂いています。

嚥下リハも含め 各セラピストが力を入れて取り組みましたので、その詳細を報告します。

二例とも 震災後の放射線問題が絡んで 体調を崩された方々でした。

介入の難しさはそれぞれに 異なりましたが、多職種が連携し “ま で い” に取り組んだことにより、予想以上の回復がみられました。ぜひ 皆様にご報告できればと思っております。より多くの皆様の「神経・リハビリ研究会in福島2017」への参加をお待ちしています。

(渡邊 亜貴子 副実行委員長)



① 今年の3月31日まで「避難指示区域」であった患者さんの自宅付近の現在(2017年7月)の放射線量: 0.5 μSv



② 中間貯蔵施設が決まらず、仮置き場として地域のあちこちに積み上げられる除染土。



③ 解体中の患者さんのご自宅(許可を頂いて撮影しています)。